

公共事業評価調書（事前評価２）

平成25年4月現在

【事業概要】

事業名	(仮称)新球技場整備事業				
事業箇所	北九州市小倉北区浅野三丁目	事業期間	平成25年度 ～ 平成28年度		
事業費	8,846 百万円 (内訳) 新球技場本体建設費 7,600 百万円 設計費等経費 246 百万円 道路移設整備費 1,000 百万円 (移設工事費+用地費)	国庫補助 事業区分	スポーツ振興くじ助成制度 (toto助成金) 『大規模スポーツ施設整備助成』 (文部科学省・日本スポーツ振興センター) 助成		
分野	その他	関連事業	なし		
実施主体	北九州市	事業担当課	市民文化スポーツ局 文化スポーツ部 スポーツ振興課 : 582-2395		
都市計画決定(変更)の有無	あり	過去の都決 年度		今後の都決 (変更)予 定年度	平成25年度
事業目的	サッカーやラグビーなどのレベルの高い試合やコンサートなどの開催を通じて、市民に夢と感動を与えとともに、人が集い、にぎわいあふれる北九州市の創出を目指すため、小倉駅新幹線口近くに新球技場を整備するもの。 (小中高のサッカー大会や幼児の芝生体験など市民利用も図る)				事業分類 ・
事業内容	<p>【新球技場の施設概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設用途：球技専用スタジアム 入場可能数：当初1万5千人以上（Ｊリーグの施設基準（J1基準）：1万5千人以上の観客席） 将来的には2万人以上の収容規模に拡張が可能につくりとする <p>【新球技場のコンセプト】</p> <p>みんながつどい、にぎわいを生む“海ちか・街なか”スタジアム 環境未来都市にふさわしい“エコ”スタジアム 夢と感動を生みだす“ダイナミック”スタジアム</p> <p>【新球技場の基本機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> Ｊリーグ(サッカー)やトップリーグ(ラグビー)の試合を開催するスタジアムとして、日本サッカー協会のスタジアム標準やＪリーグ規約、ジャパンラグビートップリーグ規約を踏まえ、施設計画を行う。 また、快適な観戦環境の提供と円滑な運営のために、観客・選手・メディア・関係者等の動線に配慮する。 <p>【事業手法】</p> <p>PFI手法（BTO方式） BTO方式・・・ PFI事業者が施設を建設(Build)し、その所有権を公共に移転(Transfer)した上で、PFI事業者が契約期間にわたり維持管理、運営(Operate)を行う方式。</p>				

事業実施の背景
(社会経済情勢、
これまでの経緯)

【新球技場整備検討の経緯・背景】

時 期	内 容
平成13年 4月	ニューウェーブ北九州の誕生 ・九州リーグへの参戦
平成19年 4月	北九州市サッカー協会、ラグビー協会からの要望 ・北九州市体育協会を通じ、全国規模の大会が開催できる専用球技場（2万5千人収容）の建設を要望
平成20年 2月	ニューウェーブ北九州のJFL昇格、Jリーグ準加盟 ・JFLへの参戦
平成20年 3月	スポーツ振興審議会から体育施設のあり方についての提言 ・高規格・大規模な施設が不足しているため、Jリーグの規格を満たした球技場を優先的に整備すべきとの提言
平成21年 4月	新球技場の整備について本格的な検討に着手
平成21年11月	ニューウェーブ北九州のJリーグ昇格 ・本市初のプロスポーツチーム「ギラヴァンツ北九州」の誕生
平成22年11月17日	『新球技場の基本方針』の公表（市長定例会見） ・総務財政委員会への報告（平成22年12月6日） ・人にやさしいまちづくり特別委員会への報告（平成23年1月13日）
平成23年10月 ～平成24年2月	1回目の公共事業評価の実施（全5回開催） ・具体的な事業計画を示すため基本設計等を行うことについて、「異存はない」との意見
平成24年3月9日 ～4月9日	公共事業評価結果等に対するパブリックコメントの実施 ・108人から207件の意見
平成24年 5月11日	パブリックコメント結果及び市の対応方針の公表 ・総務財政委員会への報告
平成24年 7月 9日	『新球技場の整備方針（案）』の公表 ・「新スタジアム将来イメージ検討会」を開催し、専門家の意見・アドバイスを聴取（平成23年12月～平成24年5月 全3回開催） ・総務財政委員会への報告
平成24年10月～	『新球技場の事業計画』の検討に着手 ・建設候補地の現況調査（測量調査、地質調査、既存岸壁健全度調査など） ・事業計画のとりまとめ

【社会経済情勢】

平成22年（2010年シーズン）より、ギラヴァンツ北九州がJリーグ（J2）に参戦

- ・本市初のプロスポーツチーム、ギラヴァンツ北九州の活躍は、まちのにぎわいの創出や、都市ブランドの向上といった面に加え、ふるさとを愛する気持ちを高揚させ、市民が気持ちを一つにするという誇りや一体感の醸成につながる。

〔 成績 2010年シーズン：19位/19チーム
2011年シーズン： 8位/20チーム
2012年シーズン： 9位/22チーム 〕

- ・2013年シーズンは、知名度・実績を有した柱谷氏を監督として迎え、全てを新たにするという意味の「一新」というスローガンのもと、新たな出発を切った。

平成24年（2012年）10月 スポーツ振興くじ助成制度の拡大

- ・新球技場に係る財源として、本市から文部科学省及び日本スポーツ振興センターへの助成制度の創設・助成枠の拡大の要望活動が実り、新球技場新設にあたり、30億円を上限とする新制度『大規模スポーツ施設整備助成』の創設が発表された。

平成25年（2013年シーズン）より、Jリーグクラブライセンス制度の導入

- ・Jリーグ各クラブの経営基盤の強化、競技環境、観戦環境、育成環境の強化・充実を図ることによる競技力の向上とともに、クラブが日本のスポーツ文化を成熟させる『社会資本』としての役割を担うことを目的に、Jリーグクラブライセンス制度が2013年から新たに導入された。

ライセンス制度では、「競技基準」、「施設基準」、「組織運営・人事体制基準」、「法務基準」、「財務基準」の5つの基準について審査が行われ、基準を満たしていない項目については、制裁や是正措置が課せられることとなる。

- ・ギラヴァンツ北九州の2013年シーズンのクラブライセンスは、本城陸上競技場がJ1基準（観客席数15,000人以上）を満たさないスタジアムであることを理由に、J2ライセンスの付与にとどまった。

平成31年（2019年）ラグビーワールドカップの日本開催

- ・新球技場の整備により、本市が開催地若しくはキャンプ地となる可能性がある。このことから、本市としても積極的な誘致を働きかけるため、ラグビーワールドカップ2019組織委員会主催の自治体連絡会議に参加し、試合会場または練習会場となる施設基準等の情報収集につとめている。

事業スケジュール	平成28年度の完成を目指す		
	年度	作業内容	備考
	H21～H22	基本方針策定（ 1 ）	・ 建設候補地の決定、基本方針の策定など （平成22年11月17日 基本方針の公表）
	H23～H24	整備方針策定（ 2 ）	・ 公共事業評価（大規模事業の事前評価〔1回目〕） （平成23年10月～平成24年2月） ・ 施設の基本計画及び事業手法の調査・検討 （平成24年7月9日 整備方針の公表）
	H24	事業計画策定（ 3 ）	・ 建設候補地の基礎調査 （測量、地質調査、既存岸壁調査等） ・ 事業計画の策定 ・ 公共事業評価（大規模事業の事前評価〔2回目〕）
	H25	PFI事業者公募	・ 公共事業評価（大規模事業の事前評価〔2回目つづき〕） ・ 都市計画及び港湾計画変更手続き ・ PFI事業者の公募・選定
	H26～	PFI事業実施	・ PFI事業者との契約 ・ 選定事業者による事業着手 （設計、法的手続き、工事等） ・ H28年度末の供用開始予定 （Jリーグ2017年シーズン開幕時の供用開始）

1 基本方針…新球技場の建設候補地の決定、概算事業費の算出など
2 整備方針…基本方針に基づいた施設プランや、事業手法の検討など
3 事業計画…新球技場の施設内容や事業費、スケジュールなど事業計画のとりまとめ

		成果指標名	基準年次	基準値	目標年次	目標値																																				
目標1		「見るスポーツ」の機会提供の拡充	H24年度	年間20日程度	平成29年度	年間57日																																				
		【指標設定理由】 新球技場を球技専用施設として整備することで、陸上競技兼用施設である本城陸上競技場では味わうことのない臨場感の中で、市民が、サッカーやラグビーなど「見るスポーツ」を楽しみ、夢や感動を覚える機会が増えるよう、開催する試合数やイベント数の充実や拡充を図る。 新球技場の完成後は、ギラヴァンツ北九州のJリーグ公式戦開催、ラグビートップリーグの公式戦定期開催などに加え、市民利用としては、学生・社会人などのサッカー・ラグビー県予選決勝戦レベルの試合、年間21万人の観戦者数と、年間57日程度のグラウンド利用を見込む。(その他、アメフト、グラウンドゴルフ、幼児の芝生体験、コンサートなどの「見るスポーツ」以外のイベント開催も含め、全体で年間70日程度のグラウンド利用を見込む)																																								
目標2		Jリーグ観戦者数の増加	H24年度 (2012年シーズン)	3,346人/試合	供用開始後	7,000人/試合																																				
		【指標設定理由】 新球技場の完成後は、現在のホームスタジアムである本城陸上競技場の課題点である交通アクセスや観戦環境が大幅に改善されることにより、観客者数の増加が見込める。供用開始後は、1試合平均7,000人の観客者数を目指す。 1回目の公共事業評価では、財団法人九州経済調査協会の試算により、1試合平均8,500人を見込んだ。この数字は、2010年～2011年の2シーズンの1試合平均観客者数4,119人に、アクセス・スタジアムの改善事例における増員効果倍率の2.13倍(千葉、札幌)を適用したものである。 しかしながら、2012年シーズンは、J2の試合が日曜開催になったことや、多数の観客が見込める開幕戦(徳島戦)、大分戦、千葉戦が悪天候で観客数が下がる(3試合平均の対前年比 48%、2,216人)など、シーズンを通しての観客者数が1試合平均3,346人(対前年比 17.4%)となったことから、同協会の試算方法を活用し、2012年シーズンの観客者数に増員効果倍率を掛け、7,000人とした。																																								
事業の目標		【参考】千葉・札幌の事例に基づく、新球技場の観戦者数の想定(九経調報告 H24.1月)																																								
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>ジェフ千葉</th> <th>市原臨海競技場(臨海)</th> <th>フクダ電子アリーナ(フクアリ)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>所在地</td> <td>千葉県市原市</td> <td>千葉県千葉市</td> </tr> <tr> <td>施設形態</td> <td>陸上競技場</td> <td>球技専用</td> </tr> <tr> <td>収容人員</td> <td>14,051人</td> <td>18,500人</td> </tr> <tr> <td>アクセス</td> <td>五井駅からシャトルバスまたは徒歩30分</td> <td>蘇我駅から徒歩8分</td> </tr> <tr> <td>屋根</td> <td>ほとんど無し</td> <td>観客席のほぼ全面が屋根に覆われている</td> </tr> </tbody> </table>		ジェフ千葉	市原臨海競技場(臨海)	フクダ電子アリーナ(フクアリ)	所在地	千葉県市原市	千葉県千葉市	施設形態	陸上競技場	球技専用	収容人員	14,051人	18,500人	アクセス	五井駅からシャトルバスまたは徒歩30分	蘇我駅から徒歩8分	屋根	ほとんど無し	観客席のほぼ全面が屋根に覆われている	<table border="1"> <thead> <tr> <th>コンサドーレ札幌</th> <th>厚別公園競技場(厚別)</th> <th>札幌ドーム(札幌)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>所在地</td> <td>北海道札幌市厚別区</td> <td>北海道札幌市豊平区</td> </tr> <tr> <td>施設形態</td> <td>陸上競技場</td> <td>球技専用(サッカー・野球兼用)</td> </tr> <tr> <td>収容人員</td> <td>20,005人</td> <td>41,484人</td> </tr> <tr> <td>アクセス</td> <td>大谷地駅からシャトルバスまたは徒歩20分</td> <td>福住駅から徒歩10分</td> </tr> <tr> <td>屋根</td> <td>ほとんど無し</td> <td>ドーム球場のため全面(観客席・グラウンド)</td> </tr> </tbody> </table>			コンサドーレ札幌	厚別公園競技場(厚別)	札幌ドーム(札幌)	所在地	北海道札幌市厚別区	北海道札幌市豊平区	施設形態	陸上競技場	球技専用(サッカー・野球兼用)	収容人員	20,005人	41,484人	アクセス	大谷地駅からシャトルバスまたは徒歩20分	福住駅から徒歩10分	屋根	ほとんど無し	ドーム球場のため全面(観客席・グラウンド)
ジェフ千葉	市原臨海競技場(臨海)	フクダ電子アリーナ(フクアリ)																																								
所在地	千葉県市原市	千葉県千葉市																																								
施設形態	陸上競技場	球技専用																																								
収容人員	14,051人	18,500人																																								
アクセス	五井駅からシャトルバスまたは徒歩30分	蘇我駅から徒歩8分																																								
屋根	ほとんど無し	観客席のほぼ全面が屋根に覆われている																																								
コンサドーレ札幌	厚別公園競技場(厚別)	札幌ドーム(札幌)																																								
所在地	北海道札幌市厚別区	北海道札幌市豊平区																																								
施設形態	陸上競技場	球技専用(サッカー・野球兼用)																																								
収容人員	20,005人	41,484人																																								
アクセス	大谷地駅からシャトルバスまたは徒歩20分	福住駅から徒歩10分																																								
屋根	ほとんど無し	ドーム球場のため全面(観客席・グラウンド)																																								
		ジェフ千葉における観客動員数の変化(J1)		<ul style="list-style-type: none"> 観戦者数データはJリーグホームページより算出 臨海時代の他施設開催分は除き、臨海開催のみの平均観客者数を算出 同条件比較のため、J2である2010シーズン以降は比較対象から除外 																																						
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>シーズン</th> <th>臨海</th> <th>フクアリ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>臨海</td> <td>2002</td> <td>5,863</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2003</td> <td>7,181</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2004</td> <td>7,362</td> </tr> <tr> <td>併用</td> <td>2005</td> <td>6,166</td> <td>15,610</td> </tr> <tr> <td>フクアリ</td> <td>2006</td> <td></td> <td>13,393</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2007</td> <td></td> <td>14,149</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2008</td> <td></td> <td>14,084</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2009</td> <td></td> <td>14,730</td> </tr> <tr> <td></td> <td>平均</td> <td>6,668</td> <td>14,193</td> </tr> </tbody> </table>		シーズン	臨海	フクアリ	臨海	2002	5,863		2003	7,181		2004	7,362	併用	2005	6,166	15,610	フクアリ	2006		13,393		2007		14,149		2008		14,084		2009		14,730		平均	6,668	14,193	$14,193(人) / 6,668(人) \quad 2.13$		
シーズン	臨海	フクアリ																																								
臨海	2002	5,863																																								
	2003	7,181																																								
	2004	7,362																																								
併用	2005	6,166	15,610																																							
フクアリ	2006		13,393																																							
	2007		14,149																																							
	2008		14,084																																							
	2009		14,730																																							
	平均	6,668	14,193																																							
		コンサドーレ札幌における観客動員数の差異(J2)		<ul style="list-style-type: none"> 観戦者数データはJリーグホームページより算出 同条件比較のため、J1であった2008シーズンは比較対象から除外 																																						
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>厚別</th> <th>札幌ドーム</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2007</td> <td>7,952</td> <td>18,594</td> </tr> <tr> <td>2008</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2009</td> <td>7,017</td> <td>14,816</td> </tr> <tr> <td>2010</td> <td>6,456</td> <td>14,879</td> </tr> <tr> <td>2011</td> <td>7,948</td> <td>14,249</td> </tr> <tr> <td>平均</td> <td>7,356</td> <td>15,635</td> </tr> </tbody> </table>			厚別	札幌ドーム	2007	7,952	18,594	2008			2009	7,017	14,816	2010	6,456	14,879	2011	7,948	14,249	平均	7,356	15,635	$15,635(人) / 7,356(人) \quad 2.13$																	
	厚別	札幌ドーム																																								
2007	7,952	18,594																																								
2008																																										
2009	7,017	14,816																																								
2010	6,456	14,879																																								
2011	7,948	14,249																																								
平均	7,356	15,635																																								
		ギラヴァンツ北九州の観客動員数(J2)		<ul style="list-style-type: none"> 観戦者数データはJリーグホームページより算出 九経調の試算(1回目の事業評価 H24.1月) $4,119 \times 2.13 = 8,773 \quad 8,500(人)$ 今回の市の試算(九経調試算をベースに再検討) $3,346 \times 2.13 = 7,126 \quad 7,000(人)$ 																																						
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>本城</th> <th>試合数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2010</td> <td>4,189</td> <td>18</td> <td>2シーズンの平均は</td> </tr> <tr> <td>2011</td> <td>4,051</td> <td>19</td> <td>4,119人</td> </tr> <tr> <td>2012</td> <td>3,346</td> <td>21</td> <td>J2の日曜開催</td> </tr> <tr> <td>平均</td> <td>3,839</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			本城	試合数	備考	2010	4,189	18	2シーズンの平均は	2011	4,051	19	4,119人	2012	3,346	21	J2の日曜開催	平均	3,839																					
	本城	試合数	備考																																							
2010	4,189	18	2シーズンの平均は																																							
2011	4,051	19	4,119人																																							
2012	3,346	21	J2の日曜開催																																							
平均	3,839																																									
		【参考】Jリーグ2012年シーズンの観客動員数																																								
		<ul style="list-style-type: none"> J1平均観客者数：17,566人(対前年比+11.2%) J2平均観客者数：5,805人(対前年比9.7%) 																																								

コ ス ト		合計 (百万円)	H 2 5	H 2 6 ~ H 2 7	H 2 8
事業費		8,846	30	1,000	7,816
建設工事費		7,600			7,600
設計費等経費 (1)		246	30		216
道路移設整備費		1,000		1,000	
財源内訳	一般財源	130	30	100	
	国庫支出金	0			
	県支出金	0			
	地方債	5,716		900	4,816
	その他 (2)	3,000			3,000
<p>1 その他経費として、H25はPFIアドバイザー経費、H28は設計費、監理費を計上している。(工事完了時に一括支払いを想定)</p> <p>2 スポーツ振興くじ助成制度 (toto助成金) 『大規模スポーツ施設整備助成』 (文部科学省・日本スポーツ振興センター所管) を活用する</p>					
管理・運営計画	管理運営方法	PFI手法 (BT0方式) による指定管理方式としている。			
	管理運営コスト	<p>管理運営コストは、支出予測として、類似規模施設 (2万人程度) であるフクダ電子アリーナ (千葉市)、ベストアメニティスタジアム (鳥栖市) などを参考に算出した指定管理料と、建設候補地の借地料を合わせ、年間約1.5億円を見込んでいる。</p> <p>これに対し、施設使用料やネーミングライツにより、年間約0.5億円の収入を見込み、本市の財政負担としては、差し引き約1億円と算出している。</p>			
	収支予測	<ul style="list-style-type: none"> 支出予測：委託料 (指定管理料)、建設候補地の借地料 = 約1.5億円 収入予測：施設使用料収入 + ネーミングライツ = 約0.5億円 			
費用便益分析	費用項目 (C)		便益項目 (B)		
	施設整備費 (設計費、監理費含む) 8,846百万円		スポーツを観戦することによる便益		
	維持管理費 (賃借料、大規模修繕費含む) (年間) 210百万円		(年間) 1,046百万円		
	50年間の現在価値換算での累計 10,715百万円		50年間の現在価値換算での累計 19,195百万円		
		<p>【算定方法】</p> <p>国土交通省の「大規模公園費用対効果分析手法マニュアル」の考え方に沿って、旅行費用法 (トラベルコスト法) を使用し、スポーツ観戦者の球技場までの交通費やチケット代金を積み上げることで、スポーツを観戦することによる価値を便益として算定した。</p>			
費用計	10,715 百万円	便益計	19,195 百万円	B / C	1.79

【評価結果】

評価項目及び評価のポイント														
1 事業の必要性														
(1) 現状と課題		配点	評価レベル	得点										
生活利便性・安全性の向上	地域の現状・課題を十分検証し、的確に把握しているか(すべての検証データの提示、他都市・地域に比較できるデータがある場合はそれとの比較) それらの課題は、地域・市にとってどの程度必要と考えられるか(課題を解決しない場合に生じる影響の度合い)	5	3	3										
地域経済の活性化・産業振興	利用者・市民の要望を正確に把握し、需要を詳細に分析しているか(要望書の有無、協議会の設立状況等) 公共事業以外の代替手段はないのか(ソフト施策、市・民間の類似施設の活用の検討状況等) 市の計画との関連はあるか(計画の進捗状況、今後の予定等)	10	4	8										
【評価内容】														
<p>本城陸上競技場の現状と課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ギラヴァンツ北九州の現在のホームスタジアムである本城陸上競技場は、10,202席の観客席を有し、J2基準(観客席数10,000席以上など)を満たすものの、J1基準(観客席数15,000席以上など)は満たしていない施設である。(H20～H21に必要最低限の改修工事を実施し、J2基準を満たしたスタジアムとなっている。) ・ギラヴァンツ北九州ホームゲーム開催にあたっては、Jリーグ事務局から、様々な施設改善の指摘があがっている。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 常設の入場券売場や物品販売所の不備 ○ 記者席や放送ブース、カメラ設置スペース、観客用トイレの不足 ○ 審判更衣室やドーピングコントロール室が場外にあり安全面で不適当 など ・更に必須ではないものの、原則として具備しなければならない設備として、以下のような課題もある。 <ul style="list-style-type: none"> ○ メインスタンドを覆う屋根や電光掲示板がない ○ 室内練習場の不足 ○ 来賓席や選手更衣室の不足 ・また、Jリーグの試合を開催するにあたって、以下のような問題がある。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 最寄り駅からのアクセスが悪く、近くに駐車場が十分確保できないこと ○ 第一種低層住居専用地域に立地しており、周辺の住民や店舗から、試合中の音や駐車マナーなどに対して苦情が寄せられていること ・また、本城陸上競技場は本市唯一の第1種公認陸上競技場であることから、陸上など他の競技大会などとの利用調整に苦慮している。(Jリーグ公式戦は、年間を通して21試合であるが、事前練習や、前日の準備作業を含めると、週末の土日を占用利用することが多く、他競技大会等の開催・誘致に支障が生じている状況である) <p>Jリーグクラブライセンス制度の導入について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Jリーグ各クラブの経営基盤の強化、競技環境、観戦環境、育成環境の強化・充実を図ることによる競技力の向上とともに、クラブが日本のスポーツ文化を成熟させる『社会資本』としての役割を担うことを目的に、Jリーグクラブライセンス制度が2013年から新たに導入された。 ・ライセンス制度では、「競技基準」、「施設基準」、「組織運営・人事体制基準」、「法務基準」、「財務基準」の5つの基準について審査が行われ、基準を満たしていない項目については、制裁や是正措置が課せられることとなる。 ・ギラヴァンツ北九州の2013年シーズンのクラブライセンスは、本城陸上競技場がJ1基準(観客席数15,000人以上)を満たさないスタジアムであることから、J2ライセンスの付与にとどまった。 ・この結果、仮に、ギラヴァンツ北九州のJ2での成績が、自動昇格条件であるリーグ1、2位や、昇格プレーオフの参加要件である3～6位になったとしても、J1基準を満たしたスタジアムがない以上は、昇格どころかプレーオフの参加資格も得ることができない。 ・成績面で条件をクリアしても、施設面がネックでJ1昇格ができないため、チームの士気が上がらず、またファンも応援するインセンティブを失うなど、地域密着型のスポーツチームを支援する推進力を失うおそれがある。 <p>利用者・市民の要望について</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成19年 4月</td> <td>北九州市サッカー協会、ラグビー協会からの要望 ・北九州市体育協会を通じ、全国規模の大会が開催できる専用球技場(2万5千人収容)の建設を要望</td> </tr> <tr> <td>平成22年11月25日</td> <td>北九州市体育協会から新球技場整備の早期実現の要望 ・新球技場が北九州市におけるスポーツ振興に大きく寄与するため、整備の早期実現を要望</td> </tr> <tr> <td>平成24年 2月29日</td> <td>小倉のまちづくりを考える会からの提言 ・中心市街地のにぎわいが一層拡大され、まち全体として浮上が期待できる新スタジアムの一日でも早い完成を要望</td> </tr> <tr> <td>平成24年 4月 2日</td> <td>北九州中小企業経営者協会からの要望 ・北九州市の未来の地域経済発展のため、こどもたちの夢や希望に応えるため、一日でも早い新スタジアム建設の予算措置と完成を強く要望</td> </tr> </tbody> </table>					時期	内容	平成19年 4月	北九州市サッカー協会、ラグビー協会からの要望 ・北九州市体育協会を通じ、全国規模の大会が開催できる専用球技場(2万5千人収容)の建設を要望	平成22年11月25日	北九州市体育協会から新球技場整備の早期実現の要望 ・新球技場が北九州市におけるスポーツ振興に大きく寄与するため、整備の早期実現を要望	平成24年 2月29日	小倉のまちづくりを考える会からの提言 ・中心市街地のにぎわいが一層拡大され、まち全体として浮上が期待できる新スタジアムの一日でも早い完成を要望	平成24年 4月 2日	北九州中小企業経営者協会からの要望 ・北九州市の未来の地域経済発展のため、こどもたちの夢や希望に応えるため、一日でも早い新スタジアム建設の予算措置と完成を強く要望
時期	内容													
平成19年 4月	北九州市サッカー協会、ラグビー協会からの要望 ・北九州市体育協会を通じ、全国規模の大会が開催できる専用球技場(2万5千人収容)の建設を要望													
平成22年11月25日	北九州市体育協会から新球技場整備の早期実現の要望 ・新球技場が北九州市におけるスポーツ振興に大きく寄与するため、整備の早期実現を要望													
平成24年 2月29日	小倉のまちづくりを考える会からの提言 ・中心市街地のにぎわいが一層拡大され、まち全体として浮上が期待できる新スタジアムの一日でも早い完成を要望													
平成24年 4月 2日	北九州中小企業経営者協会からの要望 ・北九州市の未来の地域経済発展のため、こどもたちの夢や希望に応えるため、一日でも早い新スタジアム建設の予算措置と完成を強く要望													

市民説明状況について

- ・ 1回目の公共事業評価以降も継続し、属性が偏ることのないように配慮して、市民説明に取り組んだ。
 平成25年1月末までの1年間で、自治会や、PTA・学校関係者等の社会教育団体に力点を置き、延べ94団体、3,056人に対し、説明を行った。(1回目の事業評価(平成24年1月末)時点から36団体1,503人の増)
 説明の際には、スポーツ観戦に伴う経済効果、ギラヴァンツ北九州がもたらす都市イメージの向上・地域の発信力、スポーツ文化の振興などの多面的な価値についても説明を行ったほか、市民の判断材料を増やすため、1回目の公共事業評価終了後に策定した整備方針(平成24年7月)の内容としてコンセプトや事業手法など、説明内容を充実させた。
- ・ 今後も引き続き、様々な機会を使って、多くの市民に丁寧な説明を行い、理解をいただきながら、意見交換に取り組んでいきたい。

[参考]市民説明状況(1回目の事業評価時点と現時点の比較)

	1回事業評価終了時点 (H24.1月末時点)		今回 (H25.1月末時点)		増 (-)	
	団体	人数	団体	人数	団体	人数
自治会	9	233	15	457	6	224
まちづくり団体	11	313	13	359	2	46
社会教育団体	14	206	32	970	18	764
スポーツ団体	5	257	6	375	1	118
企業・商業団体	19	544	28	895	9	351
合計	58	1,553	94	3,056	36	1,503

[参考]アンケート結果

	団体	人数									
			賛同	非賛同	わからない	無回答					
自治会	13	327	18%	189	58%	109	33%	24	7%	5	2%
まちづくり団体	10	215	12%	154	72%	39	18%	20	9%	2	1%
社会教育団体	24	362	20%	251	69%	83	23%	26	7%	2	1%
スポーツ団体	5	221	12%	182	82%	30	14%	8	4%	1	0%
企業・商業団体	24	670	37%	585	87%	47	7%	35	5%	3	0%
合計	76	1,795	100%	1,361	76%	308	17%	113	6%	13	1%

説明団体94団体中、アンケートを実施したのは76団体

市の計画との関連性について

時 期	内 容
平成20年 3月	スポーツ振興審議会から体育施設のあり方についての提言 ・ 高規格・大規模な施設が不足しているため、「Jリーグの規格を満たした球技場を優先的に整備すべき」との提言
平成20年12月	「元気発進!北九州」プランの策定 ・ スポーツ振興の観点から、高規格な施設について、優先度の高い球技場などの整備を検討
平成23年 9月	北九州市スポーツ振興計画の策定 ・ 「みるスポーツ」の振興を図るため、「Jリーグ規格を満たしたサッカーやラグビーなどの専用の球技場を優先的に整備
平成23年10月 7日	「新スタジアムについて考えるシンポジウム」の開催 ・ (財)日本サッカー協会川淵名誉会長による基調講演、パネルディスカッションなど

評価項目及び評価のポイント

(2) 将来需要 (将来にわたる必要性の継続)

配点

評価
レベル

得点

地域の課題・需要は、長期間継続することが見込まれるか。
将来の需要を十分に検証しているか (すべての検証データの提示、他都市・地域に
比較できるデータがある場合はそれとの比較)

5

4

4

【評価内容】

Jリーグクラブライセンスに係る将来にわたる新球技場の必要性について

- ・ 2013年シーズンから新たに導入されたJリーグクラブライセンス制度では、ギラヴァンツ北九州の2013年シーズンのクラブライセンスは、本城陸上競技場がJ1基準(観客席数15,000人以上)を満たさないスタジアムであることから、J2ライセンスの付与にとどまった。
- ・ この結果、仮に、ギラヴァンツ北九州のJ2での成績が、自動昇格条件であるリーグ1、2位や、昇格プレーオフの参加要件である3～6位になったとしても、J1基準を満たしたスタジアムがない以上は、昇格どころかプレーオフの参加資格も得ることができない。
- ・ J1基準を満たした新球技場が整備されない限り、成績面で条件をクリアしてもJ1昇格ができないため、チームの士気が上がらず、またファンも応援するインセンティブを失うなど、地域密着型のスポーツチームを支援する推進力を失うおそれがある。

将来利用者予測について

- ・ 完成後の試合数や観戦者数の試算については、1回目の公共事業評価において財団法人九州経済調査協会が実施した方法を活用し、2012年シーズンの観客者数の実績等を踏まえ、再検討を行った。
- ・ 1回目の公共事業評価では、同協会の試算により、1試合平均8,500人を見込んだ。この数字は、2010年、2011年の2シーズンの1試合平均観客者数4,119人に、アクセス・スタジアムの改善事例における増員効果倍率の2.13倍(千葉、札幌の例)を適用したものである。

$$4,119人 \times 2.13 = 8,773人 \quad 8,500人$$

しかしながら、2012年シーズンは、J2の試合が日曜開催になったことや、多数の観客が見込める開幕戦(徳島戦)、大分戦、千葉戦が悪天候で観客数が下がる(3試合平均の対前年比 48%、2,216人)など、シーズンを通しての観客者数が1試合平均3,346人(対前年比 17.4%)となったことから、同協会の試算方法を活用し、2012年シーズンの観客者数に増員効果倍率を掛け、7,000人とした。

$$3,346人 \times 2.13 = 7,126人 \quad 7,000人$$

利用内容	試合数 (日)	2012年シーズン結果を 踏まえた市の試算	
		観戦者数(人)	年間観戦者数 (人)
Jリーグ公式戦+プレシーズンマッチ+天皇杯			
Jリーグ公式戦	21	7,000	168,000
プレシーズンマッチ	1		
天皇杯(本戦2回戦以降)	2		
以外のサッカー有料試合			
なでしこリーグ	2	1,000	3,000
天皇杯(本戦1回戦)	1		
ラグビートップリーグ公式戦			
ラグビートップリーグ公式戦	4	4,000	16,000
その他のサッカー、ラグビー(学生大会等)			
学生サッカー	26	1,000	26,000
学生ラグビー			
合計	57		213,000

- ・ 上図のとおり、新球技場の完成後は、ギラヴァンツ北九州のJリーグ公式戦開催、ラグビートップリーグの公式戦定期開催などに加え、市民利用としては、学生・社会人などのサッカー・ラグビー県予選決勝戦レベルの試合、年間21万人の観戦者数と、年間57日程度のグラウンド利用を見込む。

(その他、アメフト、グラウンドゴルフ、幼児の芝生体験、コンサートなどの「見るスポーツ」以外のイベント開催も含め、全体で年間70日程度のグラウンド利用を見込む)

- ・ また、試合開催日以外の日常利用の促進を図ることとしている。
 - 景観スポット・デートスポットなど、人が集まる仕掛けにより日常的な集客を目指す。
 - 市民への芝生開放や、スタンド・コンコース・諸室などを市民や民間事業者へ貸し出すことで試合開催以外の利用促進を図る

(3) 市の関与の妥当性	配点	評価レベル	得点
<p>国・県・民間ではなく市が実施すべき理由は何か（法令による義務等） 関連する国・県・民間の計画はあるか（計画の進捗状況・今後の予定、国・県・民間との役割分担等）</p>	5	5	5
<p>【評価内容】</p> <p>Ｊクラブのホームタウンとしての役割</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市初のプロスポーツチーム「ギラヴァンツ北九州」の活躍は、まちのにぎわいの創出や、都市ブランドの向上といった面に加え、ふるさとを愛する気持ちを高揚させ、市民を一つにするという誇りや一体感の醸成につながるものである。 本市はこのＪリーグクラブチームのホームタウンとして、その活躍の舞台となる新球技場を整備するものである。Ｊリーグ規約においても、ホームタウンはＪクラブに対して全面的な支援をすることと規定されている。（Ｊリーグ規約第21条） 市の長期構想である「元気発進！北九州」プラン（H20年12月）の中で、スポーツを通じたにぎわいづくりのため、ニューウェーブ北九州（現ギラヴァンツ北九州）を市のシンボルチームとして、市民や地元企業と一体となって支援していくとしている。 <p>スポーツ振興くじ助成の対象者</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成25年度に新設されるスポーツ振興くじ助成制度「大規模スポーツ施設整備事業」では、Ｊリーグのホームスタジアムの全国的な実情を踏まえて、助成対象者を都道府県及び市町村と限定している。 <p>Ｊリーグのホームスタジアムの実情・他都市の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> Ｊリーグ全40クラブのうち、公共所有のスタジアムを利用しているのが38クラブ、民間所有のスタジアムは2クラブ（柏レイソル、ジュビロ磐田）のみであり、その2クラブは、Ｊリーグ加盟（柏：1995年、磐田：1994年）前から現スタジアムをホームスタジアムとして利用していた。（1993年のＪリーグ発足時の10チームでさえも、前身の日本サッカーリーグ時代から公共施設をホームスタジアムとしていた。） 柏レイソル：日立柏サッカー場（株）柏レイソル所有 2011年に（株）日立製作所から譲渡された） ジュビロ磐田：ヤマハスタジアム（ヤマハ発動機（株）所有） 新球技場は、美術館、博物館、市民会館、体育館などと同様に、料金収入等の収入源が限られるため、建設資金の償還は困難である。また、市民のスポーツにふれあう機会の増加や、まちのにぎわいの創出、都市ブランドの向上など、市全体にとっての社会的・経済的効果を発揮するインフラとしての役割が強いことなどから、行政主体の整備が求められる。 このように、Ｊリーグクラブの大半がホームタウンである自治体所有の施設をホームスタジアムとして位置づけている。ギラヴァンツ北九州の現状からみても民間の力でスタジアムを独自に建設するのは困難である。 			

(4) 事業の緊急性	配点	評価レベル	得点
<p>緊急に行わなければ生じる損失、早急に対応することによって高まる効果を十分検証し、的確に把握しているか(すべての検証データの提示、他都市・地域に比較できるデータがある場合はそれとの比較) 防災、危険回避、企業誘致の状況等から事業の実施が緊急を要するか。 その他、早急に対応しなければならない特別な理由があるか。</p>	5	4	4
<p>【評価基準】 Jリーグクラブライセンス制度の導入について</p> <ul style="list-style-type: none"> Jリーグ各クラブの経営基盤の強化、競技環境、観戦環境、育成環境の強化・充実を図ることによる競技力の向上とともに、クラブが日本のスポーツ文化を成熟させる『社会資本』としての役割を担うことを目的に、Jリーグクラブライセンス制度が2013年から新たに導入された。 ライセンス制度では、5つの基準(「競技基準」・「施設基準」・「組織運営・人事体制基準」・「法務基準」・「財務基準」)について審査が行われ、基準を満たしていない項目については、制裁や是正措置が課せられることとなる。 ギラヴァンツ北九州の2013年シーズンのクラブライセンスは、本城陸上競技場がJ1基準(観客席数15,000人以上)を満たさないスタジアムであることから、J2ライセンスの付与にとどまった。 ギラヴァンツ北九州の直近2シーズンの成績は8位、9位と、J1への昇格プレーオフ進出圏内である6位にあと一息のところまで迫っている中で、このまま新球場が建設できず、本城陸上球技場を本拠地として使い続ける場合、ギラヴァンツ北九州が成績面でJ1昇格の条件を満たしていたとしても、J1基準の施設(観客席数15,000席以上等)がその時点で存在していなければ、J1昇格が認められないこととなっている。本市は、ギラヴァンツ北九州を地域のシンボルとして育成・支援することとしており、新球場建設には長い期間を要することを考慮すると、J1昇格に向けて実力を付けつつある現在において、新球場の整備を進めておく必要がある。 成績面で条件をクリアしても、施設面がネックでJ1昇格ができないため、チームの士気が上がらず、またファンも応援するインセンティブを失うこととなる。 また、親会社を持たないギラヴァンツ北九州の収入は、チケット収入によるほか、地元企業等からのスポンサー料が大きな割合を占めることとなる。J1に昇格できないチームのメディアへの露出の向上は今以上に期待できず、広告価値が見込めないとすると、企業のスポンサー離れなど、地域密着型のスポーツチームを支援する推進力を失うおそれがある。 J2に昇格して3年が経過し、今後ともギラヴァンツを核としてスポーツを通じたまちづくりを展開していくためには、ネックとなっている施設面での不備を解消していくことが急務となっており、平成28年度末の完成を目指して、新球場の整備を推進していく必要がある。 <p>本城陸上競技場の利用調整の改善について</p> <ul style="list-style-type: none"> 本城陸上競技場は本市唯一の第1種公認陸上競技場であることから、陸上など他の競技大会などとの利用調整に苦慮しているが、Jリーグ(J2)公式戦は、年間を通して21試合であり、事前練習や、前日の準備作業を含めると、週末の土日を占用利用することが多く、他競技大会等の開催・誘致に支障が生じている状況である。 新球場が整備されることで、利用調整について大幅に改善されることから、(財)北九州市体育協会から市に対して「新球場整備の早期実現について」の要望が出されている。(平成22年11月25日付) 新球場の完成後は、例えば「全日本実業団陸上競技大会」など、これまで開催できなかった陸上大会等の誘致を図っていくことが可能であり、本市のスポーツ振興の拠点として活用を図ることができる。 <p>スポーツ振興くじ助成金の活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ振興くじ助成金について、現状の平成28年度完成に向け、満額30億円の助成を受ける予定である。仮に整備スケジュールが遅れることになり、他都市のスタジアム新設事業が生じた場合に助成のタイミングが重なれば、競合により助成額が減額され、市の負担額が増加するおそれがある。(現状では、スケジュールが競合するスタジアム事業はない) H29以降は、国立競技場の建替(事業費約1,300億円)が計画されており、toto助成金が活用される予定である。 			

評価項目及び評価のポイント

2 事業の有効性（直接的効果、副次的効果）		配点	評価レベル	得点
生活利便性・安全性の向上	事業実施後の改善見込みを「適切な成果指標」を用い、的確に説明しているか（数値表現によらず「定性的な目標」を設定した場合にはその明確な理由） 事業効果により、どのように課題が解決されるかを論理的に検証しているか（すべての検証データの提示、他都市・地域に比較できるデータがある場合はそれとの比較）	10	3	6
地域経済の活性化・産業振興	事業予定地は、類似施設の配置バランス、交通の利便性、周辺施設の状況等から妥当か（第三者委員会等で検討が行われている場合はその検討状況等も記載）	20	4	16

【事業の直接的効果】

新球技場完成後の利用者による年間消費経済効果

- ・ 完成後は、プロサッカーやラグビートップリーグ、学生サッカー・ラグビーなどの試合開催やコンサート、市民利用等も想定している。
- ・ 本城陸上競技場は八幡西区の西端に位置し、JR最寄駅からは約1.6kmあり、公共交通アクセスの優れた立地条件であるといえる。一方、新球技場は市の都心部である小倉北区に位置し、本市中心の交通結節点であるJR小倉駅からも約500mであり、公共交通アクセスに優れ、利便性の高い立地であるといえる。
- ・ また、新球技場は、従来の競技場と比較して臨場感のあふれる施設となる。施設自体の魅力が大きくなることで、競技場で開催されるコンテンツが同じでも、集客力の向上が見込まれる。
- ・ 以上を考慮すると、新球技場の利用者は本城陸上競技場と比較して大幅に増加し、年間21.3万人の利用が想定される。また、観戦者によるチケットや交通費、飲食費、グッズ・土産購入費、宿泊費などの観戦に伴う消費活動が発生し、年間約10.3億円の直接的な消費経済効果が見込まれる。（下図参照）
- ・ また、新球技場は交通利便性の高い小倉駅に近接していることから、来場者に対しては公共交通機関の利用やまちなかへの駐車場利用の促進を行うこととなり、来場者のまちなかへ誘導することで、上記の観戦に伴う直接的な消費経済効果10.3億円に加えて、「ついで買い」による消費経済効果も期待できる。

利用内容	試合数 (日)	観戦者数 (人)	年間観戦者数 (人)	年間消費額 (円)
Jリーグ公式戦 + プレシーズンマッチ + 天皇杯	24	7,000	168,000	908,670,000
以外のサッカー有料試合	3	1,000	3,000	11,673,750
ラグビートップリーグ公式戦	4	4,000	16,000	72,236,000
その他のサッカー、ラグビー（学生大会等）	26	1,000	26,000	40,950,000
合計	57		213,000	1,033,529,750

新球技場建設による経済波及効果

- ・ 新球技場建設（本体建設費76億円）による経済波及効果は、平成17年の北九州市産業連関表により第3次間接効果まで考慮し、約137億円を試算している。

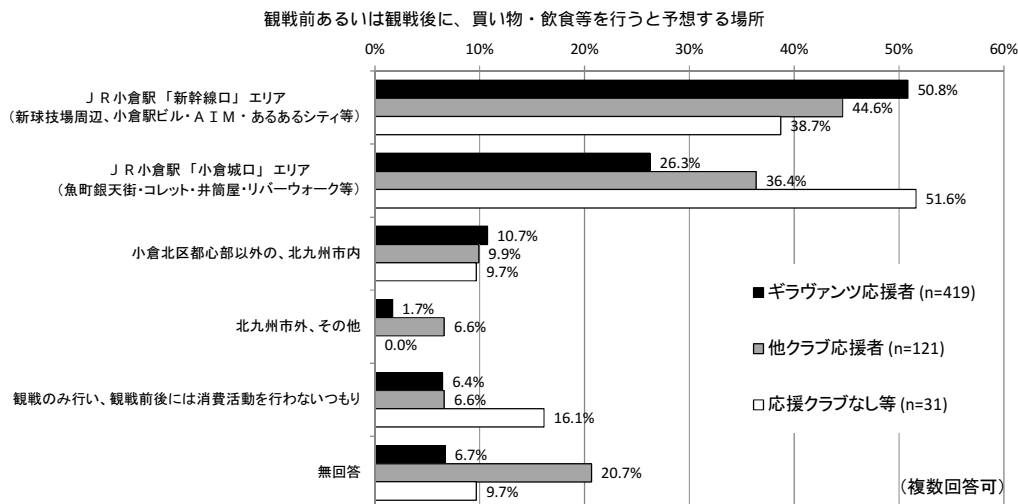
にぎわい創出効果

- ・新球技場は、サッカーやラグビーなどの試合開催や、コンサートやグランドゴルフ、こどもたちの芝生体験などにより、都心部のにぎわいづくりにつながるものと考えている。

周辺には、国際会議場や展示場、A I M、ホテルなどの整備に加え、近年の小倉記念病院の開業やあさの汐風公園、漫画ミュージアムの誕生など、まちの集客機能が高まってきており、これらとの連携により、様々な効果が期待できる。

新球技場が、単にスポーツ競技や観戦だけでなく、まちなかのにぎわいづくりに貢献できる施設とするため、関門海峡など、本市が誇る景観資源を活かし、多くの市民や全国各都市の人が気軽に水辺に訪れるエリアのランドマークとする。

- ・『ギラヴァンツ北九州2012年スタジアム観戦者調査』の基礎集計結果では、新球技場での観戦前あるいは観戦後に、買い物・飲食等を行うと予想する場所として小倉駅周辺が大きな割合を占める。観戦者による周辺での消費活動の活性化により、観戦に伴う直接的な消費経済効果に加えて、「ついで買い」の消費行動が発生し、更なるまちなかのにぎわい創出が期待できる。（下図参照）



(出典) ギラヴァンツ北九州2012年スタジアム観戦者調査 (北九州市立大学南准教授 2012年10月7日実施)

本城陸上競技場の利用環境の改善

- ・新球技場の完成によって、現状で利用調整に苦慮している本城陸上競技場の利用環境も大幅に改善されることになり、他の競技団体にとっても利用方法の拡大が見込めることとなる。
- ・本城陸上競技場は、本市唯一の第1種公認陸上競技場であることから、その特長を活かし、また市西部地域の拠点となる中核施設として、全国・西日本・九州規模の大会開催などの活用を図っていく。
- ・なお、本城運動場との併用で天然芝グラウンドが2面使用できることとなり、サッカー・ラグビーなどの複数の試合が開催でき、活用方法が広がることとなる。

防災施設としての活用

- ・災害時に、既存の市周辺施設・防災岸壁・ヘリポート・病院・ホテル等と連携し、避難場所や救援物資の保管倉庫など、災害時の防災施設として活用することとしている。

【事業の副次的効果】

都市のイメージアップ、情報発信力、スポーツ文化の振興

- ・北九州市よりも規模の小さな都市でもプロチームを保有する都市は多数あるが、北九州市は、政令指定都市でありながら、今までプロスポーツチームを持たなかった経緯がある。
ギラヴァンツ北九州の活躍が全国メディアで取り上げられるなど、多くの国民の目に触れることを通じて、北九州市の都市のイメージアップや情報発信を展開していくことが可能となる。
- ・また、ギラヴァンツ北九州の活躍を通じて、本市においてスポーツに親しみ、スポーツを体験する層が拡大することによって、スポーツを中心とした地域文化の醸成や地域への愛着を高めることができる。
- ・観戦に訪れた子供がギラヴァンツに対する憧れを抱くことによって、サッカー・スポーツへの興味・関心が高まり、スポーツ活動への積極的な参画や体力向上等にもつなげることができる。
- ・新球技場整備によって、今まで競技場に来なかった人も応援のために来場することが見込まれるため、サッカー、スポーツファンの拡大が見込まれる。また、ギラヴァンツの応援等を通じて地元への愛着が高まる、スポーツ観戦や体験教室の参加等の拡大を通じて、スポーツ人口が拡大される、などの効果も期待できる。

評価項目及び評価のポイント

3 事業の経済性・効率性・採算性

(1) 建設時のコスト縮減対策

	配点	評価レベル	得点
<p>構造、施工方法等に関するコスト縮減対策の検討を十分行っているか（ランニングコストを下げるための工法までを含めた検討状況） 代替手段の検討を行い、コストが最も低いものを選択しているか。 事業規模は、事業目的、利用者見込み、類似施設を検証し、決定したものか（すべての検証データの提示、他都市・地域に比較できるデータがある場合はそれとの比較） 工期は、事業規模・内容から見て適切か。 事業手法について民間活用（PFI等）の検討を十分行っているか。</p>	10	4	8

【評価内容】

施設規模1.5万人（拡張可能型スタジアム）での事業化

- 平成24年7月に公表した整備方針では、海に張り出す特徴を持った球技専用スタジアムを想定し、入場可能数は概ね2万人、球技場本体のみの建設費は約100億円という内容で取りまとめた。
 昨年9月議会で補正予算が承認された後、建設候補地の測量や陸上部分・海中部分の地質調査や関係者調整を行いながら、新球技場の施設内容や事業費、スケジュールなどを、事業計画としてとりまとめる作業を進めてきた。
- 調査を進めた結果、整備方針に基づき、海上部に張り出して2万人規模の新球技場を作った場合、当初想定内の約107億円で整備できることが確認できた。
 一方、海上部に新球技場を張り出して建築する場合、関係者調整や建築基準法に基づく構造チェックに特別な審査が必要となる可能性があるなど、事前手続きに想定以上の時間を要する恐れがあり、平成28年度の完成が遅れる可能性があることも確認できた。
- また、同時に検討を進めてきた「コスト縮減策」も踏まえ、既存道路を移設の上、整備する敷地の範囲を陸上のみとし、まずは事業費を抑えた「1基準の1.5万人規模の拡張可能型スタジアム」として、事業化を目指すこととした。
 この計画であれば、完成遅れのリスクを回避できると共に、海上部工事が不要となり、施設規模も小さくなることから、当初の事業費は約89億円となった。
- なお、将来的には、海上部への観客席の増設により、2万人規模への拡張が可能な作りとしたいと考えている。

民間活力活用の検討

- PFI手法（BT0方式）

新球技場の特性を考慮し、事業費の縮減や維持管理の効率化などの経済性、整備スケジュール、まちづくりなどの視点から、公設公営手法や、民間活力活用の諸手法と比較検討を行った結果、民間の経営能力や技術能力などが十分に発揮でき、市の財政負担の軽減やサービス水準の向上など、効率的、効果的に本事業の目的を達成することが期待できることとして、PFI手法（BT0方式）を選択した。

なお、PFI手法（BT0方式）を選択することにより、従来方式（市が設計・施工を行い、管理運営は指定管理者制度を導入）に比べ、VFM＝約12%（縮減額：約9億円）の効果を試算している。

(2) 管理運営の検討

	配点	評価レベル	得点
<p>整備後の管理運営コストを十分検証し、把握しているか（すべての検証データの提示、他都市・地域に比較できるデータがある場合はそれとの比較） 管理運営の実施主体について詳細な検討を行っているか（PFI、指定管理者、民間委託、NPO、市民団体等の検討結果等）</p>	10	4	8

管理運営コストについて

- 管理運営コストは、支出予測として、類似規模施設（2万人程度）であるフクダ電子アリーナ（千葉市）、ベストアメニティスタジアム（鳥栖市）などを参考に算出した指定管理料と、建設候補地の借地料を合わせ、年間約1.5億円を見込んでいる。
 PFI手法（BT0方式）により、通常の公設公営方式に比べ、管理運営コストの削減が図れると見込んでいる。
- これに対し、施設使用料やネーミングライツにより、年間約0.5億円の収入を見込み、本市の財政負担としては、差し引き約1億円と算出している。

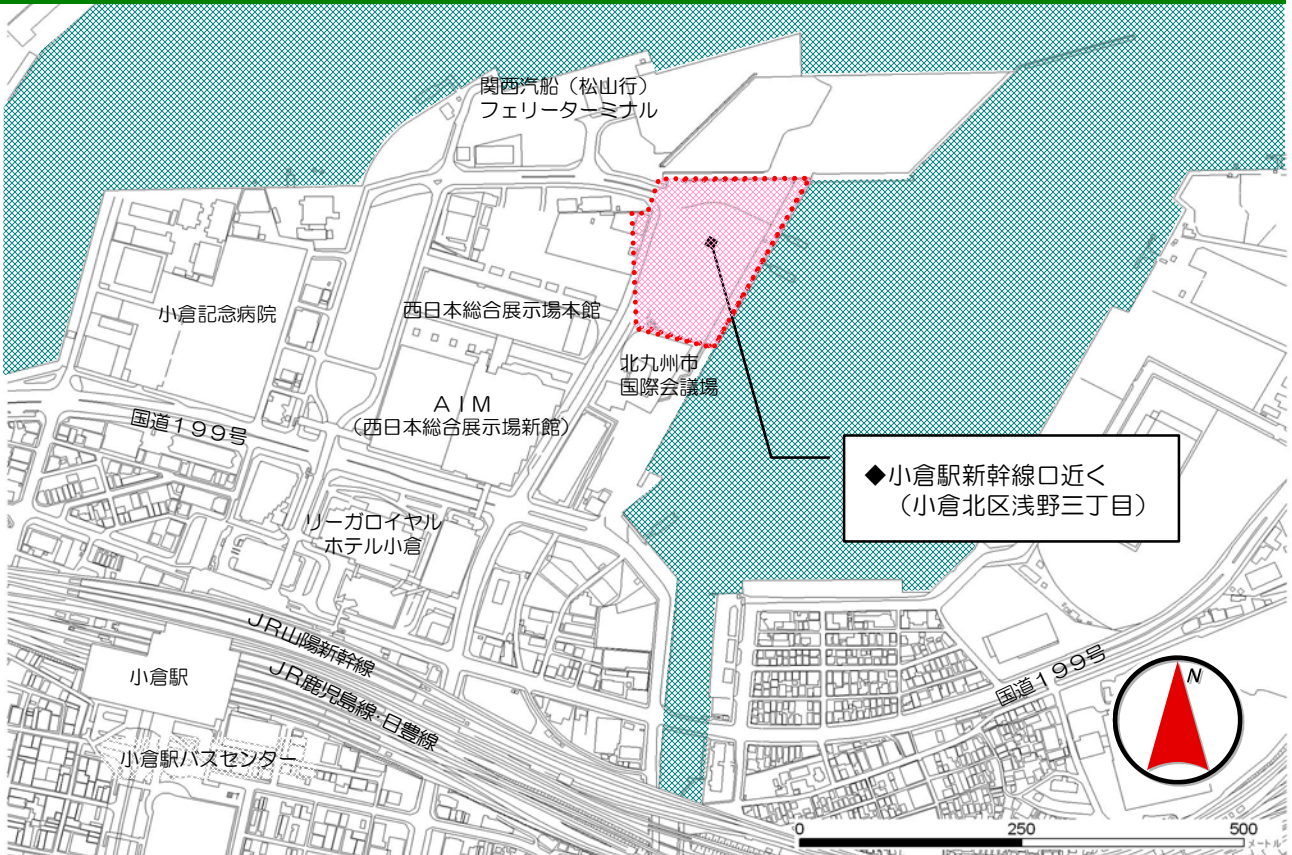
(3) 費用便益分析	配点	評価 レベル	得点
<p>費用便益分析の値（B / C）は国の採択基準値を超えているか。 便益項目、費用項目の設定は妥当か。 「感度分析」を行い、下位ケースシナリオの値と、国の採択基準値の比較検証を行っているか。</p>	10	5	10
<p>【評価内容】</p> <p>費用便益分析の結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> 費用便益分析の結果、B/C=1.79となり、便益が費用を上回っている。 分析にあたっては、国土交通省の「大規模公園費用対効果分析手法マニュアル」の考え方に沿って、旅行費用法（トラベルコスト法）を使用し、スポーツ観戦者の球技場までの交通費やチケット代金を積み上げることで、スポーツを観戦することによる価値を便益として算定した。 <p>【旅行費用法（トラベルコスト法）】 「施設利用者は、施設までの移動費用をかけてまでも利用する価値があると認めている」前提のもとで、施設までの移動費用（料金、所要時間）を利用して施設整備の価値を貨幣価値で評価する手法。</p>			
(4) 事業の採算性（ただし、収益を伴う事業のみ）	配点	評価 レベル	得点
<p>事業は土地の売却等の収入を含めて構成されており、その実現性について問題はないか。 事業の収支予測は、客観的データを十分検証し、様々なリスクを勘案した上で作っているか（すべての検証データの提示、他都市・地域に比較できるデータがある場合はそれとの比較、累積収支黒字転換年等） 累積収支が黒字になるまでの期間は、市の財政状況等から勘案して許容できるものか。 PFI等、民間を活用した厳格な検証を行っているか。 民間を活用した複数のシナリオを前提とした検証を行っているか。</p>			
<p>【評価内容】</p> <p>本事業は、建設資金や運営経費等を収益により償還することを予定していない</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>[参考] 事業スキーム：PFI手法（BT0方式）</p> <p>初期投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本体建設費 : 76億円 ・ 設計費等経費 : 3億円 <hr style="width: 50%; margin-left: 0;"/> <p style="margin-left: 40px;">合計 : 79億円</p> <p>・ (別途)道路移設整備費 : 10億円</p> <p>財源</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ totoくじ助成金（30億円）を活用 ・ 残額については、起債対応 ・ なお、市負担額の軽減を図るため、市民・企業募金を募る予定 <p>管理運営コスト（年間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年間支出 約1.5億円（指定管理料、建設候補地の借地料） ・ 年間収入 約0.5億円（ネーミングライツ、施設使用料） </div>			

評価項目及び評価のポイント			
4 事業の熟度	配点	評価レベル	得点
<p>関係者等との事前調整は進んでいるか。(具体的な賛成、反対があればその状況) 事前に阻害要因は想定されるか。その場合、解消方法をどのように考えているか。(今後の見込み)</p> <p>必要な法手続きはどのような状況か。(都市計画決定、環境影響評価等の状況、今後の予定)</p> <p>用地取得で難航案件が想定されるか。</p>	5	5	5
<p>建設候補地の関係者との調整について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地権者とは、事前調整中である。公共事業評価手続きが完了後に正式な申し入れを行い、借地契約等を実施予定である。 ・ 併せて周辺土地地権者や漁業関係者とも事前協議を重ねている。 <p>法手続きに係る関係部局との調整について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道路線形の変更に伴う都市計画の変更、港湾計画の変更について、関係部署と調整中である。(どちらの変更手続きもH25年度中に完了する予定) <p>その他の関係者との調整について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Jリーグ、日本サッカー協会、日本ラグビー協会など、利用団体等とは事前調整済みである。 			
5 環境・景観への配慮	配点	評価レベル	得点
<p>「環境配慮チェックリスト」による点検は十分行っているか。</p> <p>環境アセスメントは必要か(必要な場合はその結果または今後の予定)</p> <p>事業実施により、周辺環境・景観にどのような影響を及ぼすことが考えられるか。</p> <p>環境保全の達成に向けて、どのような環境配慮・景観配慮の手法を採用しているか。</p>	5	4	4
<p>【評価内容】</p> <p>エコスタジアムとして</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新球場が、産業や技術、歴史・文化など、北九州市固有の魅了や力を強く発信でき、本市の顔となるよう、新球場の整備方針において「環境未来都市にふさわしい”エコ”スタジアム」と掲げており、積極的に環境負荷の低減を目指す環境配慮型施設とする。 ・ 建築物の建設事業に係る環境配慮チェックリストによる確実な点検を実施することとしている。 ・ 事業者公募段階では、雨水の再利用など、環境モデル都市を象徴する様々な工夫に取り組むことを要求水準として盛り込むこととしている。 ・ また、具体的な環境配慮として、スタンドの屋根上部への太陽光パネル設置を別途事業化(PFI事業者の提案の中で実施、または、屋根貸し制度を活用)し、環境未来都市にふさわしい技術の活用によって、内外にPRできる施設としたいと考えている。 <p>景観配慮について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 都心景観の形成及び関門海峡の形成の両面から、景観アドバイザー制度等を活用しながら、本市の景観計画に基づく施設とすることとしている。 <p>環境アセスメントについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本事業は、環境アセスメント対象外の事業となる(運動施設は面積20ha以上が該当する。新球場の敷地面積は陸地部分で2.5ha程度である) 			

【内部評価】

評価の合計点	81 / 100 点	評価結果	事業を実施すべき
<p>評価の理由 及び 特記事項</p>	<p><事業の目的> 競技レベルの高いプロスポーツ等の試合を観戦することは、その臨場感やダイナミズムを直接肌で感じることができ、観戦者に夢や感動を与えると同時に、スポーツへの関心や意欲を高めるものである。 また、プロスポーツや国際的・全国的スポーツ大会の誘致・開催などは、まちの知名度やイメージアップのほか、集客力向上に伴う経済効果を生み、まちのにぎわいづくりや活性化につながるものである。 本市初のプロスポーツチームとして誕生したギラヴァンツ北九州の活躍は、まちのにぎわいの創出や、都市ブランドの向上といった面に加え、ふるさとを愛する気持ちを高揚させ、市民を一つにするという誇りや一体感の醸成につながるものである。</p> <p><事業の必要性> ギラヴァンツ北九州は2010年（平成22年）シーズンからJリーグ（J2）に参戦し、本城陸上競技場をホームスタジアムとして活躍しているが、本城陸上競技場はJ1基準である入場可能数15,000人以上を満たしていないため、2013年（平成25年）シーズンはJリーグのクラブライセンスにおいてJ2ライセンスの付与にとどまった。 また、本城陸上競技場は本市唯一の第1種公認陸上競技場であることから、陸上など他の競技大会などとの利用調整に苦慮している。（Jリーグ（J2）公式戦は、年間を通して21試合であるが、事前練習や、前日の準備作業を含めると、週末の土日を占用利用することが多く、他競技大会等の開催・誘致に支障が生じている状況である）</p> <p><事業の有効性> 新球場は、プロの試合の開催だけでなく、学生・社会人などのサッカー・ラグビー県予選・決勝戦レベルの試合や、アメフト、グラウンドゴルフ、幼児の芝生体験など市民も利用できる施設としての活用も図るとともに、小倉駅に近いという立地特性を考えると、人が多く集まる新球場は、単にスポーツ競技や観戦だけでなく、まちなかのにぎわいに貢献できる施設となるものであり、年間21万人の観戦者数と、年間約10.3億円の消費経済効果が見込めるものである。</p> <p>さらに、小倉駅新幹線口地区は、コンベンション施設等の国際交流機能を中心とした「交流都心」に位置付けられており、北九州市国際会議場や西日本総合展示場、あさの汐風公園など、周辺施設との連携によって、イベント開催や既存機能の活用など、魅力の増進を図ることが出来るものである。</p> <p><事業の経済性・効率性> 事業計画の策定に当たっては、平成24年7月に公表した整備方針を基に、効率的な施設プランやコスト縮減の検討などに取り組んできたが、目標としている平成28年度の完成に向け、今回、既存道路を移設の上、整備する敷地の範囲を陸上のみとし、まずはJ1基準の1.5万人規模の拡張可能型スタジアムとして事業化を目指すこととした。この計画は海上部に張り出して建築する場合における完成遅れのリスクを回避できると共に、海上部工事が不要となり、施設規模も小さくなることから、当初事業費の縮減につながるものである。</p> <p>併せて、平成24年10月には、本市がかねてから要望していた、スポーツ振興くじ助成金における球場の新規建設事業に対する助成制度の新設が発表され、新球場は当該制度を活用することで30億円の助成金が見込める見通しであり、更なる市財政の負担軽減に有効なものである。</p> <p>事業手法についても、新球場の特性を考慮し、事業費の縮減や維持管理の効率化などの経済性、整備スケジュール、まちづくりの視点で検討した結果、PFI手法（BTO方式）により、民間の経営能力や技術能力などを有効活用することで、市の財政負担の軽減やサービス水準の向上など、効率的、効果的に本事業の目的を達成することが期待できる。</p> <p><特記事項> 市民意見の把握について 市民の事業への理解については、平成22年11月の基本方針公表以降、属性が偏ることのないよう配慮して、様々な市民層に対して説明を行ってきた。 その結果、平成25年1月末現在で、94団体・3,056人に対して説明を行い、説明会後に実施したアンケートでは、回答者の76%が賛同の意向であるという結果を得ている。 ギラヴァンツ北九州に対する市民の盛り上がりについて これまで、市の事業によるチームの認知度の向上策、ギラヴァンツ北九州自身のホームタウン活動などによる機運の盛り上げなどに取り組んできており、チームの市民への認知度もJリーグ昇格後3年間で88%になるなど、徐々に高まってきている。 チームは新監督のもと、地域活動に積極的な姿勢を見せており、本市としても新たなファン層拡大の開拓のための新規事業の実施により、ギラヴァンツ北九州が、真に「おらが街のチーム」となることを目指し、チームの市民1人1人への浸透を図っていく。 「まちの賑わいづくり」について 新球場は“海ちか・街なか”スタジアムとして、新幹線口エリアの回遊性の向上や小倉城口エリアとの連携により、既存の周辺施設との連携・ネットワーク化を図ることで、小倉都心部が一体となったにぎわいを創出することとしている。 クラブと商店街との連携による成功事例を参考として、事業の進捗に合わせて、ギラヴァンツ北九州・地元商店街・周辺施設運営者などと協議を進め、多くの人がまちを訪れ、賑わいを生む効果的な連携について検討を深めていくこととしている。 以上のことを踏まえて、本事業について詳細な評価を行った結果、事業を実施すべきと判断する。</p>		
対応方針案	計画通り実施		

建設候補地位置図



道路移設を伴う1.5万人規模の陸上部計画

